



## 5 八幡東区

産業と生活の新しいかたちを創造するまち



### 1 現状と課題

八幡東区は、官営八幡製鐵所(現新日鐵住金)の発祥地であり、近代日本の発展の礎となったまちです。現在では、工場・社宅跡地などが総合的に整備され、新しいまちづくりが進んでいます。しかし、市内で最も高齢化率<sup>※1</sup>が高く、山すその斜面地や高台に広がった住宅地には老朽家屋などが自立ってきています。今後は、盛んな地域コミュニティ<sup>※2</sup>活動の強みを活かし、新しく整備された地区と旧市街地との一体化によるまちづくりや安全・安心で暮らしやすいまちづくりが求められています。

### 2 地域資源

- ①JR八幡駅前地区では、駅前の立地を活かして、土地の高度利用と景観整備により、住宅と商業・業務機能が一体となった市街地が整備されています。
- ②平野地区では、独立行政法人国際協力機構(JICA)九州国際センターや公益財団法人北九州国際技術協力協会(KITA)<sup>※3</sup>、九州国際大学などの集積により、海外から多くの研修員や留学生の受け入れが活発に行われています。また、音響効果の優れた市内唯一の音楽専用の響ホールや現代美術センター・CCA北九州などがあります。

- ③八幡東田地区では、アミューズメント施設や大型商業施設、さらには環境ミュージアムや自然史・歴史博物館(いのちのたび博物館)などの文化施設が集積し、多くの市民や観光客でにぎわっています。また、情報通信関連産業などの集積が行われるとともに、産官学の協働による環境共生型住宅の整備や北九州スマートコミュニティ<sup>※4</sup>創造事業の実施など、環境モデル都市の先進的地区として新たなまちづくりが進んでいます。



いのちのたび博物館



- ④緑豊かな丘陵地に囲まれ板櫃川が流れる高見地区では、戸建・共同住宅や商業・生活関連施設などの一体的な整備が進み、子どもの自然体験の場となる「板櫃川水辺の楽校」が整備されています。



東田第一高炉跡

- ⑤市街地の背後には、緑豊かな皿倉山がそびえ、そのふもとにある河内貯水池周辺は、かつて八幡の奥座敷と称された風光明媚なたたずまいを有しています。

- ⑥日本の産業の礎となった東田第一高炉跡や河内貯水池、旧百三十銀行八幡支店などの近代化遺産<sup>※5</sup>が数多く見られます。



皿倉山(新日本三大夜景)

### 3 まちづくりの方向性

- ①既存の工場の基盤を活用し、生産活動を維持・発展させるとともに、情報通信関連産業などの集積を図ります。
- ②地域住民によるコミュニティ活動を、継承・強化しながら、新たな産業と暮らしとが融和した、子どもから高齢者までの誰もが安全・安心で暮らしやすいまちをつくります。
- ③アミューズメント施設や各種博物館等の広域観光施設や文化施設などの観光資源を活かし、多くの人が訪れ、楽しみ、学ぶことができるまちをつくります。集客拠点の東田地区と八幡駅前・中央・枝光地区などの既存市街地との連携強化を図り、回遊性を高めていきます。

- ④大学などの教育・文化施設や国際協力機関と連携しながら、市民の文化芸術活動、国際交流の拠点となるまちをつくります。
- ⑤河内貯水池や皿倉山などの豊かな自然を守り、市街地の水と緑を育み、環境共生のまちをつくります。

**用語解説**  
 ※1 高齢化率/P8参照 ※2 コミュニティ/P12参照  
 ※3 北九州国際技術協力協会(KITA)/1980年に設立され、北九州市域に普及された工業技術、環境是観等を開発途上国へ移転することを目的として、研修員受け入れや専門家派遣等を通じて国際技術協力を実施している。  
 ※4 スマートコミュニティ/IT(情報技術)や最先端の技術を活用したエネルギーの有効活用をはじめ、地域の交通システム、市民のライフスタイルの改善などを複合的に組み合わせたエリア単位での次世代のエネルギー・社会システムの概念のこと。  
 ※5 近代化遺産/P17参照